

第 6 回 第 2 次平塚市都市マスタープラン検討会議 議事録

1. 日時・場所

- ・平成 20 年 2 月 5 日 (火) 15:00 ~ 17:15
- ・平塚市勤労会館 2 階 中会議室

2. 出席者 (敬称略)

【委員】

区分	氏名	所属等	備考
学識経験者	杉本 洋文	東海大学工学部建築学科教授	座長
	照屋 行雄	神奈川大学経営学部国際経営学科教授	副座長
	岡村 敏之	横浜国立大学大学院工学研究室准教授	
各種団体推薦者	三浦 清孝	平塚市自治会連絡協議会	欠席
	田中 宏一	平塚商工会議所 (商業)	
	石田 庸夫	平塚商工会議所 (工業)	
	本荘 孝幸	湘南農業協同組合	欠席
	三木 健明	神奈川県バス協会	
	上村 文子	女性防災クラブ平塚パワーズ	欠席
	田代 勝俊	平塚青年会議所	
	花本 由紀	平塚市地域教育力ネットワーク協議会	欠席
公募市民委員	川口 聖子		
	黒部 光司		
	真道 陽一		
関係行政機関	木村 博	神奈川県平塚土木事務所所長	代理

その他、傍聴者 2 名

【事務局】

氏名	所属等	備考
久永 逸雄	都市政策部長兼都市政策課長	
小野間 孝	都市政策課都市計画担当課長代理	
武井 敬	都市政策課都市計画担当主査	
五島 裕文	都市政策課都市計画担当主査	
平田 勲	都市政策課都市計画担当主査	
野呂 俊之	都市政策課都市計画担当主査	

【作業協力班】

氏名	所属等	備考
高尾 利文	株式会社アルメック 第二計画部長	
坂井 雅子	株式会社アルメック 第二計画部部長代理	
武澤 潤	株式会社アルメック 第二計画部インターン	

3. 議事

【議事次第】(1) 開会 (2) 議事 (3) その他

【(2) 議事の内訳】

- 1) 地域別の方針(案)について
- 2) 「第 章 実現にむけて」について

4. 配付資料

- 資料 第 章 地域別の方針/素案、第 章 実現に向けて/構成のみ
参考資料 - 1 地域別懇談会のご報告(案)
参考資料 - 2 「第 章 地域別の方針/素案」作成のためのバックデータ

5. 議事概要

(1) 開会

事務局(都市政策部長): 本日はお忙しい中、都市マスタープラン検討会議にご出席いただきましてありがとうございます。新年度最初の検討会議にこの様な話をすると夢にも思っておりませんが、皆様方から御厚情を賜っていただきました佐藤前都市政策部長が病のため、1月にご逝去されましたので、ここにご報告させていただきます。そしてそれを受けまして、2月1日付で後任といたしまして、都市政策部長兼都市政策課長の命を受けました久永でございます。引き続き、皆様方からのご協力をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

本日の会議ですけれど、前回まで全体構想ということでご協議を頂いたわけですが、その後地域別懇談会等を行いまして、地域別方針の討議資料としてまとめさせていただきました。その地域別方針につきまして、今日は活発なご議論をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

事務局: 会議を始めます前に、委員の方の変更がありましたのでご報告いたします。交通分野からの推薦であります神奈川中央交通の小早川様が、同じく神奈川中央交通の三木健明様に変わりましたのでご報告させていただきます。

それでは会議を始めさせていただきます。本日の会議は、平塚市情報公開条例第31条の規定に基づき公開とし、会議録につきましても平塚市のホームページで公表させていただきますので、ご承知願います。

それでは、第2次平塚市都市マスタープラン検討会議設置要綱第5条第3項の規定に従いまして、杉本座長に議長をお願いし、議事の進行をお願いしたいと思います。宜しくお願いいたします。

(2) 議事

座長: 今年初めての検討会議ですが、いよいよ地域別懇談会を終えて各地域の方針ということで、かなり細かい部分まで議論しなければならないと思います。活発な意見交換をお願いしたいと事務局からも言われておりますので、地域別になるとかなり細かい意見もあると思いますが、是非お気づきの点をご発言いただきたいと思っております。また、最後に我々が検討している内容について、どのように実施していったらいいかということについても検討することになっておりますので、最後の部分もよろしくお願い致します。

では資料について事務局のほうから説明をしていただきます。よろしくお願い致します。

1) 地域別の方針(案)について(資料、参考資料 - 1、2)

(事務局より資料説明)

座長： ありがとうございます。できればバラバラに議論するよりは、最初の南部地域から順番にご意見をいただきたいのと、全体的にこういう点が落ちているのではないかといった視点についてもご意見をお願いしたいと思っています。

まず全体的にこういう視点が抜けているというご意見があればお願いします。

副座長： まず全体に関わる事だと思いますが、中心地域は平塚市全体の中でも極めて重要な所ですので問題提起と言いますか、今日議論したいことのひとつとして挙げたいと思います。

A3の参考資料-2の9ページですが、今ご説明がありました、中心地域の住まい環境のところ、「戸建て住宅のみどり豊かな居住環境を形成」とあります。これは中心地域について、どこまでを住居系のエリアとするのか、あるいは北口・西口を中心とした駅から一定の範囲内で、核となるエリアをどこまでと考えるのかという議論があると思います。この戸建て住宅での緑豊かな居住環境の形成と関連して、中高層住宅地や周辺の住宅地と調和するように誘導という箇所についてですが、私はこの26万人余の中堅規模の平塚市で駅周辺を中心として形成されている地域は、限度はあると思いますが、ビルの高さ制限をする事や、近くの住宅地との住宅環境の整備を重視するとはどういうことか再考する必要があるように考えています。またみどりの豊かさがどの程度かにもよりますが、駅周辺は土地の高度利用をするということで、ある意味で選択と集中の政策によって、土地をもっと有効利用することによって縦の空間を活用することが重要です。それから駅を中心とした交通の利便性、人々の生活の利便性、外部からの入居者の誘致、平塚市が観光収入としてのものづくりや商業・工業活動、人々の交流やイベントといったものも含めて、中核となるという部分では、エリアはどこまでの範囲が適切かという課題があります。

都市を破壊しない限りにおいては、特に西口は安心安全や質の良い平塚にふさわしい業種を誘導するなどの課題はあるものの、もっと積極的に20年後の都市を考える時に土地を活用して、都市の利便性、都市に住む喜びや意味、サービスやコミュニティの提供という意味では、この戸建て住宅のみどり豊かな居住環境形成や中高層住宅との調和がどの程度意味を持つかを考える必要があります。これだけの空間ですから、他の地域における整備が影響を受けないようにしますが、西口のエリアはもっと整備されて住宅や施設や様々な資源が投入されてコアになっていいのではないかと思います。大胆で乱暴かもしれませんが、地域として意見を集めるので中心地域として住みやすいという意見が出てくると思うのですが、もっと今まで積み上げてきた産業基盤、コミュニティ基盤を活かして開発可能性を探っていくという、規制をしないということではないのですが、そういう議論をした方が良いのではという感じがしました。

座長： 今のご意見は他の地区も同じことで、説明を受けてどこも似たような表現で、みな住みやすいとか住民の方が要求されるようなことをベースとして書かれていますが、それぞれの地域に特性があると思うのですね。住宅地に工業地が接しているとか、農地が多いとか、丘陵部の人口減少で農地をどうするかといった課題があるにも関わらず、比較的全体に同じような表現がされてしまっているなと感じを受けています。

この報告書の1ページの所に、もともと今回のこのマスタープランというのはどういう方針で作っているかという大事な方針転換がありまして、「いかす」「つなく」「つかう」と書いて

あるのですね。今回の都市マスタープランについては、道路を作るにしても、現況の道路で十分に活用がされていない、ちょっと変えると生活がすごく良くなるとか、そういう視点も含めてこの3つの言葉が出たと思うのです。そういう意味では今回の都市マスタープランとしてすごく重要だと思うのですね。従来ですと、土地利用と道路形態とか面的な都市計画論が多いのですが、全体的に言えば公共事業がどんどん減っているわけではないですから、住民参加とか住民の方にまちをどうやってうまく使ってもらうかという視点を、今回のマスタープランは出しているのではないかと思います。そうなると地域別の方針を先ほどのような視点で見ると、そのような表現になっていないと思います。住民がどうやって使いたいのか、いくつか生活圏みたいな事は入ってきていますが、その辺が先ほどお話があったように、中心市街地の住宅のあり方をもう少し位置づけていくという表現が必要ではないかなという感じはしますので、その辺を少し工夫していただきたいと思います。

全体的にまず受けてですが、皆さんいかがでしょうか。

委員： やはり今の先生のお話につながると思うのですが、平塚は農業や工業、漁業などいろいろなものがあると思うのですが、その中で農業の表現で地域があるのですが、食の安全とか安心安全な食の確保だけでなく、いろいろ問題になっているので子供への教育の場というものへも活用ができると思うのですね。例えば川沿いに畑を作っている方がいらっしゃいますよね。街に住んでいるとそういう場が羨ましく見えるのです。そういう所が畑としてきれいに整備されていれば、ゴミが捨てられることがなくなるし、かえってきれいな場になるのではないかと感じています。農業にしてもそういう広い視点で、この中に入れられないかなと感じました。

座長： それは「田圃は農業環境を維持」と書いてあるだけで、もう少し「つかう」とか「つなぐ」という意味では、市民が入れる仕組みづくり、または放棄している農地などをうまく活用するという視点が入るといいのかもしれないですね。他はいかがでしょう。

委員： 全体的に見渡して平塚市は川が大きなポイントになっていて、観光にも使えそうだし身近な場としても使えそうだし、そして大事な農業に結構使われています。下水道整備がだいぶ進んできましたが、金目川や渋田川は調整区域の中を流れていて田畑を潤しながら花水のほうに流れていく。その調整区域の中に、いろんな工場や新しい道路が出来てコンビニなどの沿道サービスの開発許可が下りた店が出来つつあって、その中に合併処理槽を作ればよいというような事だけで許可が下りている。水をもっと大事にしていきたい。お米や野菜を作るのにはみんなその水が使われているわけですから、開発やまちづくりの中で水の保全に対してもう少し踏み込んで、合成洗剤を使うとか、具体的に水の質を高めて食の安全も含めた水に対して、平塚市は気を使っているのだというような配慮のコメントが出来るといいかなと思います。

それから東側に相模川という大きな川が流れていて、その沿道にずっと工業系の地域がありますので、あのままただ流れているのはもったいないと思いますので、工場が使う上水道ではなくて中水道をあつ川を使って、県と協力して水資源を活かしたまちづくりが出来ないかなと思っています。

座長： ありがとうございます。その意味では先ほどのA3の9ページの左側に「道路交通」「住まい環境」「景観みどり」「地域の魅力づくり」と項目があるのですが、景観をみどりとしか言わないのですね。ところが今のご意見だと、平塚は海を含めて水面というのはすごく重要で、景観の中にもその要素が大きいと思うのですね。そうであるところにやはり水という言葉を入れていただいた方が、平塚の個性を表すという意味ではいいと思います。逆にみどりは割と他の

都市に比べてあると思うので、ここの特長は、水がうまくまちの中にあるという事ですから景観上も大事ですし、今おっしゃられたような利用でお互いにうまく汚さないように連携して使っていくなどですね。それから川やみどりの活動をされている人は、水があって川の景観というものを意識して一生懸命そこから始まっているのだと思うのです。それを道路でやってくださいといっても始まらないと思うのですね。そういう意味でいくと、やはり平塚の景観というのはおっしゃるように水というのが言葉として出てくる重要性はあると思いますし、それが農業とか工業とかに関わる事ですので視点としては出したいなと思います。ありがとうございます。

委員： 押し並べて非常に良く出来ていて、どこもみな同じような形になってしまっていると思います。特に中心市街地は、素案のほうからみますと中心市街地の概況などを見ていると、商人の方が見てそこに情熱を感じない書き方なのではないのかなと思います。西口のことでも出ましたけど、今まで開発ということで私達もいろいろなことを考えてきましたが、今度ここに出てきた言葉になると開発ではなくて整備になってしまって、どうなっているかが分からない。それからこの素案の中で一番いいなと思ったのは「ひらつかウエスタンヒルズ」の30ページの文章が、非常に情熱を感じたのですね。「本市で最も重要な自然が残っている地域です」や「自然を維持する為には里山を含む地域全体の活性化が必要です」とか「周辺環境と調和する産業系土地利用の誘導に努めます」などの事が、こちらにどのように落ちてくるかというと、今後の里山をどうするかという方向性だとかが、ありきたりのみどりの事だけで、どうなっていくのかという事を感じないのですね。里山が本当に平塚にとって、わたくしはもっと観光の部分を取り入れたほうがいいと思います。

それと、今日これ(ケナフ紙で作成されたはがきセット)を持ってきたのは、ケナフ普及協会で環境を考えたときに、平塚中を歩き回って平塚の画家さんに書いてもらったものです。私も里山を散々歩き回ってこれは大変素晴らしいなという風に思って、植樹なんかと一緒に手伝ったりして、あの辺りは平塚のこれからの観光ポイントになるだろうし、平塚のみどりや水だとかいろいろな部分でもポイントになるところなのです。けども、せっかく素案での情熱的な素晴らしい書き方が、地域別の方針になると全くどこもみな同じ書き方になっているという所が非常に残念で、どうにかならないかと思います。それは中心市街地にも言えることなのではないかと思います。

座長： 私もそう思いますので、是非事務局の方には頑張っていたきたいなと思います。でない、これはわりと住民の方の意見をベースにすると、住民の方はどこもそう差がなくなると思います。この辺は、最近、平塚の中で一番豊かな人たちで、素晴らしい環境の中にいらっしゃるのでも不満をあえて言えと言えは出てくるのですが、ほとんどは満足されているという状況がよく分かってきたので、地域的にはもちろん問題はありますが、ある所までは満足されています。それがベースになった市民意識というのがあると思いますから、わりと流れてしまっていると思いますから、課題と特長が浮き出てくるような表現をしないと多分伝わらないと思うのですね。

中心市街地も確かにそうで、ここは湘南商業の発祥の地ですから、商業の誇りを取り戻すような場所としてもう一度スタートしようというぐらいの事は書いてあげたほうが頑張れると思います。平塚の商店街のアーケードというのは、日本中の商店街のアーケードのモデルになったところで、そのぐらいの発信力があつたところですから、そのハードは今でも残っているのです。そういったものをいかして、再度商業のあり方を考える必要があると思います。商業地は

今どちらかという、ほとんど不動産業になっているのですね。お店を貸して稼ごうという意識が強くて、商いをしようという場所になってないのです。もう一度商いを取り戻すという辺りを、平塚がある意味商業の発祥地という事である勢いを、さっきのような感じで書いていたきたいなと思います。そうすると七夕と並んでもう一度元気になれるような感じがあるので。他にいかがでしょうか。

委員： はい、私もどこも同じような表現だなというのは最初に思ったのですが、それぞれ7つの地域の中からその地域を見ていますので、そこをどういう風にしたら住みやすくなるだろうか、という観点から全てのページが書かれているので、みな同じような表現になるのかなという感じがします。平塚という一つの市を魅力的なものにするためには、一つひとつの地域がどんな役割を持って平塚市の魅力の一つになるか、というような地域ごとの役割を持って平塚市の魅力になるという表現の仕方があれば、そこには例えば旭地域だったら旭地域の特長を活かして平塚市の一つの魅力になるためにはこういう役割を担って、こうしていくのだということが書かれると、もっと地域の特長が浮き彫りになると思います。平塚全体から担わなければいけないそれぞれの地域の役割といったことで書くと、もう少し差別化というか、いろんな特長が浮き彫りになるのかなと思います。

座長： ありがとうございます。確かに方針がその特長に対してどうすべきかを本当は示さなければならぬと思いますので、重要な意見だと思います。他はいかがでしょう。

委員： しっかりここまで作られています、さらに将来に向かったまちづくりと言いますか、今度さがみ縦貫道路ができるということで人が集まってくると思うのですが、外から来る人のための内容が薄いかなと思います。また、さがみ縦貫道路も商工会議所さんのほうで入口を作ろうという意見があったと思うのですが、逆にもっと未来に発展するような、入口を作れるような開発の仕方などをもうひとひねり入れたほうがいいのかと思います。このままだと以前に他で見たことがあります、ハードだけは素晴らしいが、ソフトは全然だめで、逆に住みづらい街になってしまった事例もあるので、まさにそのような感じがしたので意見ということで挙げさせていただきました。

座長： ありがとうございます。他にどうでしょうか。

委員： 私も同じような意見なのですが、7つの地域の1ページ目の所から、公共交通ということですべて同じような書き方ですね。都市マスの全体の計画に入れていただくというだけでしたら特に文句はないのですが、バス会社としては当然こういう計画、方向性で整備するとなると、道路の整備とイコールになっているので、結果を出さないといくら良い計画で題目がちゃんと挙がっていても、実際まだバスは遅れるじゃないかと要望した自分の地域にバスが来てくれないだとか、結局計画とあわせて結果がついてくることになります。平塚の北口バスターミナルの変更の計画をやらせてもらっていますが、当然平塚の都市マスの委員会が立ち上がっているという話なんかも、市はわかっているんじゃないかと思うんですけど、今の市が持ってきた案というただバリアフリー化にあわせてエレベーターを作るからバスの島を削らせて欲しいとか、他の茅ヶ崎とか藤沢などの新しく駅前広場を作ったところを見に行っても、ここで作るなら平塚が一番利用勝手が良くて、平塚らしいものを作るという計画ではないのですね。お金の面などもあると思うのですが、市民から言われてエレベーターだけ作るという具合です。この間警察と話したのですが、今ここにエレベーターを作って30年後、40年後どうなるだとか、暗い地下道をそのまま40年残すのかとか、普通だったら上にペDESTリアンデッキをすとかといった計画が出ている中でこの計画に決まりましたというのならいいのでしょうか。

けれど、ただ小手先でちょっと変えてというのであればこれはまずいのではないかと警察の方から言われたようです。せっかく7つの地域に合わせて、地域ごとの特性に合わせて将来像を進めていこうというのであれば、交通の方はこれとは別として、バスならバス部門だけでもっと小さい委員会のようなものを立ち上げていただければ、もっと充実した議論が出来るのではないかと思います。

もちろんバス路線と都市計画は同じことなので、人が沢山来て人の動きがある所には公共交通としてバス路線を引かなければならないことはバス会社の使命だと思っておりますので、その辺は協力する所存でございます。これだとあまりにもこの先どう進めたらいいのか、という話になるのももう少し踏み込んで考えていただければ、どんな事でも協力は惜しまないですし、会社側としてきちんとやりたいと思っております。

委員： 今話を聞いて思ったのですが、例えばバス屋さんはバス屋さんで将来夢を持ってこういう実験をやってみようかという部分ができる作り方をした方がいいと思うのですね。例えば、神奈中さんは平塚に本社があります。だけでも最新の交通行政は、藤沢や厚木がやろうとしている。これはどうしてなのかと思うのです。例えば交通なら交通の部分でもって、押しなべてみんな便利な交通ではなくて、日本一の部分をここで実験してみようというようなものが出てくるような書き方というのができるのではないのでしょうか。一部だけでもいいです。

座長： あとで事務局の方にはまとめて答えていただきますけれど、おっしゃる通りでなかなかメリハリがつけにくいので、全般的になってしまったのかなと思います。

副座長： これはいわゆる全体の目標とか、フレーム枠から下ろしてくるものですから、これが地域ごとの目標や特長までブレイクダウンしてやってくるとそれぞれについてこういったものになってくるというのは、設計そのものが持つある意味での限界でもあると思うのですね。そういう意味では、私は平塚という地域はかなり多彩で、海や山、もちろん商業施設や運動公園もあり、また歴史が古いということや人々の努力などもあり、さまざまな領域を形成していますので、さほど積極的なものになっていないかもしれませんが、それぞれの地域の役割とか特長、歴史などを踏まえた上での地域の特徴が出ています。平塚の全体の将来像を考えて設計されていると表現の問題は別として、そのような感じを全体的には受けています。

ただ、これは質問になりますが、この中で地域文化という言葉が出てきますよね。特に西部地域は大学や研究機関があるとか、里地里山を保全していくというのは地域文化というのでしょけれど、中心市街地にも文化はありますよね。一領域において自然環境、自然資源を大事にする、そこで人々が生活というものを見つめるとか交流するとか、人々を育成することを地域文化として限定されると、平塚市はあまりにも狭い領域になってしまうので、平塚市全体として地域文化をどう創造、継承するのか、あるいは産み出していくのか。そういう意味では先ほど西部地域に地域文化ができてきますが、地域をそこに限定した場合の地域文化をどう考えておられるのか気になります。

里地里山、自然環境の事を地域文化と言っておられるか、もっと多様で積極的だと思うのですね。その辺で平塚市全体としてどういう物を伝統を乗り越えて次世代に継承していくのか、その辺はもっと明確にしていくべきかと思えます。そういう意味で議論がでているかと思えますが、歴史やわれわれが作り上げてきたものもありますが、うまく結び付けていくような何らかの具体的な目標が設定されるべきだと思います。資源としては、平塚市は歴史的なものが随分あります。実際、平塚市内の観光めぐりを積極的に導入するべきだとのビジネスモデルも一部で出ているわけです。平塚は海や山の資源がありますし、金目には観音堂や釣鐘最中など、

そういうところが幾つかあるのでそういう平塚市の有形・無形の財産を継承していくというようなことを、地域ではなくて全体としてプロットしていくということも一つ残されているかなと思います。

座長：ありがとうございます。その辺は地域の魅力の作り方だと思いますので、ぜひその辺は入れていただきたいなと思います。他いかがでしょうか。

委員：今日は5章の部分、地域別の方針の話が出ているという事ですから、個別の話しか出てこないと言って文句をいってはいけないと思うのですが、先ほどバスの話が出ましたけれどやはり市としてネットワークとしてこうしたいですとか、バスターミナルはたまたま中心地域にあるわけですが、中心地域の為にあるわけではないので、もちろんここに書くのはいいと思うのですが、やはり前のところできちんと書かれてあったはずなので、そちらできちんと書いていただければむしろここでは書かなくてもいいのかなと思います。全体で書けない所を具体論として、地域の中で書いていただければすっきりして読みやすくなるのかなと思いました。中身の個別については皆さんおっしゃるとおりだと思います。

座長：ありがとうございます。例えばコミュニティ道路の整備がいろいろな所に入っていますが、それは全体で言えばいい事で、特にその中で何かするのであればそれを書くといいと思います。

委員：市全体でやりますというのであれば全体でそう書いてもらえればいいと思います。

座長：そういう点で言いますと、例えば平塚は公共施設がわりと良く整備されているのですよね。ここでは表現として、「使いやすい公共公益施設」ということにしていますが、これの本当の意味ですが、公共施設の運営が非常に硬く、非常に使いにくいとか、時間帯がうまく出来ていないとかなど、そういう意味では使い方のソフトの問題だと思うのですね。先ほど言いました様にマスタープランとしては、「つなぐ」とか「つかう」という事ですから、そういう表現になっていったほうが良くて、機能的に使いやすいというよりは運営の仕方のほうに重点を置いた使いやすさという事ですね。これは、市民の方と一緒に作るという方向にならないとうまくいかないと思うのですね。これを公共サービスでやってくださいと言っても、今以上のサービスにならないはずですね。平塚の場合は非常に運営の部分が硬くてうまく使われていないので、是非その辺の表現をして欲しいと思います。それをまず最初にやるのであれば、市役所の裏の文化施設の集中している図書館とか博物館等の運営を強制的にモデルを作って、全体に影響させていくやり方が必要かなと思います。

それから今委員さんから出ましたが、市の中でのまちなか観光のような視点が出てきているのですね。バス路線は今放射状に出ているのですが、回遊しようとするとう横の連携がないのですね。これは道路が無いからということではなくて、縦動線がうまく地域をつなぐ為にあるわけですから、これを回遊する仕組みを作っていく必要があると思うのですね。地域の中を小回遊するという事もあるでしょうし、旭地区から東部地区に移動するときもそうでしょうし、駅まで行ってまた放射状に乗らなければいけない体系になっているので、その辺は各地域共通した問題があるのかなという感じがします。是非観光という視点から変えていただくといいかなと思います。関連してくる事は幾つもあると思いますが、先ほど里山の事について外との交流の話がでましたが、農業を活性化させるためにも交流が必要で、やはり農地に行こうとすると放射状の動線しかないというのではだめだと思います。

それから最近、南部地域をよく歩いているのですが、これほど素晴らしい都市計画道路と歩道があって、公園がある都市はまれに見るぐらいのところだと思うのです。その割に幹線道路以外は交通量が非常に少ないです。こここそ、自転車の専用道路を作っても十分対応できる場

所ですし、特に須賀港周辺は人口が増加してまして、平塚の特長である平らであるということを見ると、自転車についてここはハード整備しなくても出来ると思います。特に自転車の空間確保というのは、南部地域では特に確保しなくてもあるので、今後はどうやって仕組みを入れるかというのがテーマじゃないかなと思います。それから緑の川沿いを自転車で行くのであれば、例えば旭地域や東部地域は、同じ自転車ですけれど広域の回遊ということが、この地域の一つの自転車の利用でしょうし、そういう視点で書いていただいたほうが地域の特長が出てくるのかなと思います。ぜひそういう点を配慮していただきたいと思います。

委員： 将来像と目標というのが各地域にございますね。私が思うに中心地域の目標が「明るく開放的な平塚の玄関作りと、界限性のある賑わいのまちづくり」「歴史と文化とコミュニティがあふれた魅力の通りづくり」で、将来像が「様々な人が集い、住まい、働く、平塚の顔として誇れるまち」と書いてありますけれど、この目標というのは本当にこういう書き方をもって夢を持って動けますか。まるで将来像と一緒にいるといっても全く問題のないものであると感じます。これが将来像だというものでもいいし、例えば目標というのはCO₂削減何%だとか、もっと具体的なものが目標なのではないでしょうか。例えば昨年から思っていますけれど、市役所が複合館になって大きな建物ができそうで、おまけに日産車体さんがプラスに考えれば出て行くことで、平塚にとんでもないスペースが出来るのでこれをどういやすのか。そして先ほどの西口の再開発の中で、今まで体育館の跡地のところが西口から赤の平面でつながっていただけが、ぐるっと廻って円で考える事が出来るような状況になりつつあるではないですか。ですからその辺の所が何も出てきていないのも残念だし、もう少し目標というものがもっと具体的で優先順位を感じさせるような、やる気や夢を感じるようなものが文章で出てきてくれたらありがたいなと思います。

座長： そろそろ事務局のほうにお答えをいただかなくてはいけないような感じですので、どうでしょうか。事務局のほうで全体でも結構ですのでご発言いただけたらと思います。

事務局： いろいろご意見をいただきました。まず全体の横並びの問題ですが、A3の資料でございますけれど基本的にこの地域別方針というのは、ここに住んでおられる方が自分の地域を見るものであって、7地域を並べて見るという事を前提で作っておりません。ただ、おっしゃられたように地域の役割、特徴というのはあると思いますし、そういった意味では一つひとつの文章については、もう少し地域を見て書きっぷりを変えていかなければいけないと思います。それとどこまで踏み込むのか、バス交通は全体で言っているからここで入れなくてもいいのではないかということですが、ほとんど全体構想では分野別方針というのを入れているものから、ある意味では地域別方針というのはなくてもいいのです。そうすると地域の特長の所だけを入れればよいという事なのですが、ただやはり地域別懇談会や市民アンケートなどを見ると、自分の所の地域がどうなるんだということを考えると、ある程度入れておかないと、その方が全部見るという事は基本的にないと思っています。全体構想を見てから地域を見るというのは、なかなか皆さんそういう行動をとらないのではないかと。地域のところを見ようとすると、ある程度のことは書いておかないといけないのかなということで、ここはどこまで書くかという点では非常に悩みました。これがいいかどうか不安な所もあります。

もう一つは、全体からブレイクダウンという事と、地域別方針を見ていて夢が持てないという事ですが、一応これまで6回の検討会議をやってきて、検討会議の感情が一番高まったのがやはりひらつかの顔づくりであって全体構想だと思っているのです。平塚の顔をつくって、その地域を広域にアピールしていきましようと言っている訳ですから、ここではあえてその事

に触れないようにしています。例えば地域別方針を分野別に区切っていますが、「道路と交通」「住まい環境」「景観・みどり」「地域の魅力づくり」という事で、商業と工業は「住まい環境」に入れ込んでいます。いわゆる、そこに住んでいる方から見て商業・工業との関わり方という視点で入れていますから、確かに街にとって商業・工業は重要なものですがそれを住まいの中に入れ込んでしまうと、あまり表立っていないという構造になっております。そこは現行の都市マスタープランと少し変えているのですが、地域別方針の方は割と淡々とですがしっかり書いておく事が重要と思って書いてあります。しかしながら、原案では必ずしも皆様のご期待に十分には応えてないのかなというのが感想です。

座長： 例えば同じ文章が並んでいますけれども、やはり強調するものは二重丸になっているとか、そういう事は出来るじゃないですか。この様に並んでいると優先順位がないのだなと見えるので、そういう工夫もあるのかなと思いますし、この詳細の各地区ごとというのはヒアリングがほとんど住民の方だと思うのです。でも企業も実は市民だと思うので、本当はその場で一緒に議論できればもっと違った意見も出てくると思うので、今言った意図であるとする、今発言されている人たちだけではなくて、そこに立地している企業さんの意見も取り挙げていかなければいけないはずなのです。その辺に工夫があるといいなと思います。もちろんあまり要素を増やしていくとだめだと思いますけれど、工夫していただく表現ができると思います。

事務局： だいたい言おうとしたことは出ていますが、目標の部分ですが、基本的に地域別懇談会で皆さんがその地域はこういう地域がいいという思いをなるべく表現したいということで、なるべく地域の方がおっしゃった事についての取りまとめを今回させていただいております。地域の方といっても地域別懇談会に出た方のみになってしまうので、また違う意見はあると思いますが、そういう視点で一度取りまとめをしてみようということで、地域の目標については今回取りまとめをさせていただきました。皆様からいただいた意見を整理させていただいて、地域の特徴的な部分などを検証しながら作業を進めていきたいと思っております。

副座長： これからまとめていくに際しての要望として、先ほどからの発言にあるのですが、各7地域の将来像と目標がありますが、将来像が2行ぐらいで明確な形で書かれていて、それを説明する文言が3行ぐらいありますよね。西部地区を見ると、これは原案ではまちづくりを目指しますと書いてありますが、その下に目標が3点ほど整理されてあるので、この辺が先ほどの意見がありますように将来像といい目標といい、キャッチフレーズや特長が大きく書いてありますので、この辺の整理をして文章に起こす必要があると思います。

それからもう一つ要望ですが、ここでは別々になっておりますが、最後のページ辺りに地域ごとのテーマ、その解説、目標とかを地域ごとに一覧表にするともっと見えてくるものもあるし、逆に埋没してしまうものもでてくるので、このような作業をしてみたらよいと思います。それから用語ですが、平仮名の「まちづくり」がなじまないものもあるのです。地域づくりとか、コミュニティづくりと書いたほうがよいような、つまり「まち」という概念を漢字で書いた場合と平仮名で書いた場合といろいろありますが、コミュニティづくりといえば一定の連続した住居、空間があった上で形成される場合にまちづくりとか書かれるわけです。地域によっては、例えば西部地域なんかは一定の住宅のかたまりはあるわけですが、そこはやはり地域づくりとかコミュニティづくりといったほうがいいのかと思いますので、整理を明確にしてもらいたいと思います。我々もお願いするだけでなく、知恵があれば出したいと思っております。

座長： 西部地域の大学の書きっぷりで言うと、もう立地しているのはあたり前なので、もっと働けと言ってもいいような気がします。せっかく立地しているのに教育だけしているのかという気

持ちが多分あると思うのですが、立地していることをすごく誉めていただいて、もっと活動を取り上げたほうが良いと思います。平塚に大学が立地しているということもすごいことですし、大学がここに集中しているのもこのすごい特長で、ここにいらっしゃる先生方の頭脳は使い方によっては相当価値があるわけで、なおかつ県の技術センターもあるということで、そういう意味では交流などで書いていくと、やはりこういう書き方ではないのではないかと思います。この間、フォーラムがあったのですが、札幌大学では大学が観光地、キャンパスが観光地というコンセプトでやっているの、東海大学も観光の一つになるように、このスポーツ選手を見に来る人がバスで来るとか、また神奈川大学は高台にあって眺望も良いので地域の方々が眺望を求めてやってくるとかという時代なのですね。もっと積極的に書いていった方がこの地域の特長が認識されると思うのです。その辺をもう少し書いたほうがいいのかなという感じがします。

あと27ページなのですが、東海大学の右側に商業地が連たんしているのですが、こういう認識はたぶん区画整理したからこういう予定なのでしょうけれど、今はほとんど学生用のアパートがどんどん建っていて、本当にここに商業がつくのでしょうか。東海大学の右側の所で沿道市街地になるということですが、書きすぎではないかなと思います。

あと逆に丘陵部のほうには、土屋などの辺りには核はないのですか。金目の公民館の周辺に行かないと生活圏はないのでしょうか。吉沢地区のほうにも公民館がありますので、その辺にはないのですか。生活利便施設としては、益々ここは自然だけあればいいよとなってしまいます。

委員： 自然を保全するためには、やはり今自然を持っている人たちが生活できる状態にしていかなければいけないわけです。その方策というのがこちらの方針の中に全然落とし込みがないわけです。あの素晴らしいものを良くするのに、もっと研究所を誘致して働く人たちがそこに住めるような住宅が作れるようにしてあげたり、今の地主さんたちが食べていけるようにしてあげたりすると自然がもっときれいになって、いろいろな人たちが来れるような形に整備されてくるんですが、今の状況だと毎年荒れていくばかりなのです。行く人たちも少なくなっています。開発が出来るような方策とか書き方というものも書いてあげないと、みんなやめていってしまうのです。農業は当然やっていないですよ。それでわずかなお金で自分達の土地を持っているわけです。

昔の話をおじいさんなどに聞くと、ゴルフコースができた時に一町300円ぐらいで買い上げられて、わずかの金額で皆さん売ったらしいのです。47戸ぐらいの地主さん達がいて、結局食べていけるのは1戸ぐらいだったというようなことで、それで今は平塚の軽井沢と言われるような場所になっていて、道もできて、ゴルフコースもできて、二宮への連結も出来ました。だけど土屋は開発も出来ない状況だから荒れていくばかりなのです。ハイキングコースにしても荒れてしまっている所を歩いているわけです。しかしこの間、絵手紙を書く人達が平塚を歩き回っていいところを発見しようよと何十人も人が参加してやった時に、あの地域の絵がどんどん出てきたのです。こんないい所があったよ、こんな素晴らしい景観があったよという事なのに、今のままだと平塚の財産になっていなくて、どんどん悪い状況になっていってしまう。このマスタープランは10年後、20年後のことを考えるものですよ。そういうものを残していくような形をとっておかないと、平塚の財産である自然がなくなっていくという事になるのではと思います。

座長： 特にコメントがあればお願いします。大体内容は伝わったと思います。全体の方で書いてありますから、その調整をとってくれというご意見でよろしくお願いします。他はいかがでしょ

うか。

委員：皆さんの意見を聞いていて、私ももっともだなと思いました。私も一度見た時に、確かにメリハリがないと言うような感じを受けました。ただ、それについては皆さん色々ご意見が出ておりますので私の方からは言いませんが、この20年後の都市マスという話ですと、細かい所を見ていけばいろいろ出ていると思いますが、これからの都市づくりをするにあたっては環境との共生、地球温暖化を考えてという視点が入ってくると思います。そのあたりは細かく見ていけばあると思うのですが、そのような視点からひとくくりコメントが入ってくればありがたいというのが一点です。

もう一点は非常に細かい話ですが、13ページ目の「道路と交通」の一番下の所に、ここだけ県に働きかけますというのが書いてあるのですが、働きかけるというのはここともう一ヶ所書いてありますよね。もう一つは134号線の所に書いてありますが、これはあえて県に働きかけますと言った意図があるのでしょうか。

事務局：全体構想のほうで働きかけますという表現を使っておりますが、そちらからきておりますが、今後、文面については全体構想の見直しも最終的にいきますので、表現については整理させていただこうと思います。

座長：ありがとうございました。まだ残っておりますが、資料の32・33ページを議論しないといけないので、この説明を事務局からお願いします。

2)「第 章 実現にむけて」について(資料)

(事務局より資料説明)

座長：ありがとうございます。質問やご意見はありますか。

委員：(1)のところの市民・事業者・行政の役割と協働と言う部分ですが、先程議長が申された事業者も市民ですよという言葉思い出したのですが、この中の写真を見ていて、市民でも知っている人はほとんどいないわけです。変な質問かもしれないですが、懇談会は、例えば商業界、工業界や金融界などのくくりの中での懇談会というのはされていないのですか。

座長：確かアンケート調査を取っていて、この委員会でも報告をいただいたと思うのですが、商業、工業をされている方に対して事業の継続などに関してやっていますね。

委員：市民の方たちはこうやって3回やって、チャートを作りながらちゃんと説明して行っているわけじゃないですか。しかし商業を束ねる組織として商連というものもあるし、商工業を束ねて行政に対して意見書を提出する商工会議所という組織もありますが、それは各個別のアンケートの中では組織としての大きな意見や力などは反映されませんよね。その部分ではとても市民優先的などを感じています。実際に商店街を良くしたりするのは、市民の方の意見を反映して一生懸命にやる商人の人たちではないですか。そういう意味では何か片手落ちのような気がしますがいかがでしょうか。

事務局：市民参加につきましては、市民の方にはどの立場でも参加していただくということですが、関係団体につきましては、こういった場で代表の方に来ていただくということと、庁内で各関係課がございます。商業部門であれば商業観光課、農業部門であれば農産課、工業部門であれば工業労政課、といった各課との庁内調整のなかで、各団体のご意見や考え方を間接的に伺っているということに留まっております。ただ、その都度、商工会議所、商店街連合会等に概要説明をさせていただいておりますので、また時期をみまして報告、説明等をさせていただきたいと考えております。

座長： 他にいかがでしょうか。

副座長： 33ページはこれから進められるという話ですが、この章の構成が大きく2つですが、地域主体のまちづくりの「地域の自立と共助そのための公助」の思想や精神というのはこれからの都市づくりには大事だと思いますが、2行目の「行政の側方支援」というのが気になります。左側に行政の役割というのもあるって、地域を構成する重要な主体の一つは行政でもあると思います。行政は財政的に厳しく、さまざまな業務があるということはわかるのですが、その行政の職員の方々も地域に戻れば家庭人であったり、地域の人であったりと様々な側面を持っているわけです。表現として公助はそういう姿勢でいいのですが、むしろ行政として20年後の都市をつくる責任がありますのでリードしていく、人づくり・組織づくり、中間での評価であったり、行政でないとできない安全安心な、あるいは環境にやさしい地域づくりの中でコミュニティのなかの重要な構成主体として活動してもらわないと、平塚市の20年後に向けて効率的な動きができていかないと思います。市、県や国が関わっていく領域をなるべく狭めていく、スリム化ということが大事なのですが、今の見方で書いていくと行政側が後ろに下がってしまって、もちろん市民が、市民のために、市民が自らというのは大事なのですが、むしろもっと行政は積極的に関わったほうがいいところはどんどん関わっていいと思うのです。そういう意味で、これは市民のための都市マスタープランですから、行政はこれを書くときにもう少し行政の役割を勇気をもって担っていただきたいと思います。

座長： たぶん三者の協働ということを書く必要があって、同じように扱ったほうがいいと思います。あと地域主体ですが、NPOなどは詳細まで考えていることはないと思いますが、地域密着型のNPOと地域全体のテーマ型のNPOがありまして、地域とNPOがその地域のエリアのなかでできていれば問題ないのですが、全域で活動している例えば子育てなどは地域がないわけです。そうなるこのプラットフォーム辺りのことが必要になると思います。そういうNPOも地域の中に入って来てもらわないとうまくいかないと思うので、そういう視点はやはり持ったほうがいいと思います。すでに自治会と町内会の機能は制度疲労していて、NPOという活動が出てきていると思うので、そういう分野も協働のなかに入ってこけるのを目指していただいた方がいいと思います。

市民活動センターをみると相当いろいろな活動をされていて、地域にエリアを持っていますから、そこの関わりなども考えて作っていただきたいし、そういう視点が入るとさらに良いという感じがします。これは市民と行政ということしか見えてこないもので、やはりNPOのような活動はこれから重要になってくると思いますので、是非その視点も入れていただくと思います。他はいかがでしょう。

委員： (3)の「庁内推進体制の確立」というのがありますが、行政の縦割りの組織の中で、他所の課に口を出すなというような体質が依然として残っているように思いますが、どこがリーダーシップを取って具体的にやっていくのかというプランがあったらお聞かせください。

事務局： 都市マスタープランの進行管理という役割については、都市政策課で担っていきたくております。ただマスタープランだけで全てのまちづくりを实践するわけではなく、関係部門で個別の分野別計画を作り、それを我々が作りやすくフォローアップしていくということで役割を担っていくように思いますので、いろいろな場で横の連携を取れるように、取るための組織づくりができるよう努めたいと考えております。

委員： 市民の目は届かないのですか。それは議会にまかせるという形になるのですか。

事務局： 最終的には予算のかかることや法律に関わることは議会に上程されてということになると思

いますが、その前段としましては昨年12月にまちづくり条例が議決されまして、今年の7月1日から施行されます。そうしますと作る段階で市民参加というような項目が、市の行政計画でも出来るだけ実施するようにということを書き込んでおりますので、そういった場でできるだけ市民の方に見ていただいて、パブリックコメントなども実施したいということは考えております。また次回の検討会議の中でも、まちづくり条例等の資料を提供できるようにしたらご用意させていただきたいと思っております。

座長： まちづくりについての委員会を立ち上げて、そこでチェックしていくというような取り組みをしているところもありますし、市民の方に報告するようなものもあります。さらにこの32ページの(4)の進行管理も整理して、次回また今日の議論を踏まえて出していただければいいかなと思います。他にはいかがでしょうか。

委員： この地域懇談会の参加者の方々の写真を見ると、ほとんどの方がご年配の方ばかりというようにお見受けしますが、青年会議所に質問ですが、青年会議所は20代30代でまちづくりに志を持って活動している団体ですよ。皆さんが考えているまちづくりというものが、この中に反映されているか、または意見を出しているかどうかをお聞かせ下さい。

委員： 基本的に青年会議所はここまで行政への様々な提言を昨年に行っておりません。また、こういうところにも入っておりません。実際昨年は市長の公開討論会がございまして、終わった後に青年会議所とNPO関係の方々と懇談会を開いてまちづくりの活動はやっていたのですが、本来ならばこういった懇談会に出た方がよろしかったのですが、出ておりません。

座長： ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。よろしいですか。今日は大変によい意見が多く出て有意義であったと思います。事務局のほうは大変だと思いますが、皆さんの意見を入れていただくとさらによくなると思いますので、是非頑張ってくださいと思います。これで予定の議事はすべて終了です。ご協力に感謝いたします。

(4) 閉会

事務局： 本日の会議はこれで終わります。ありがとうございました。

以上